

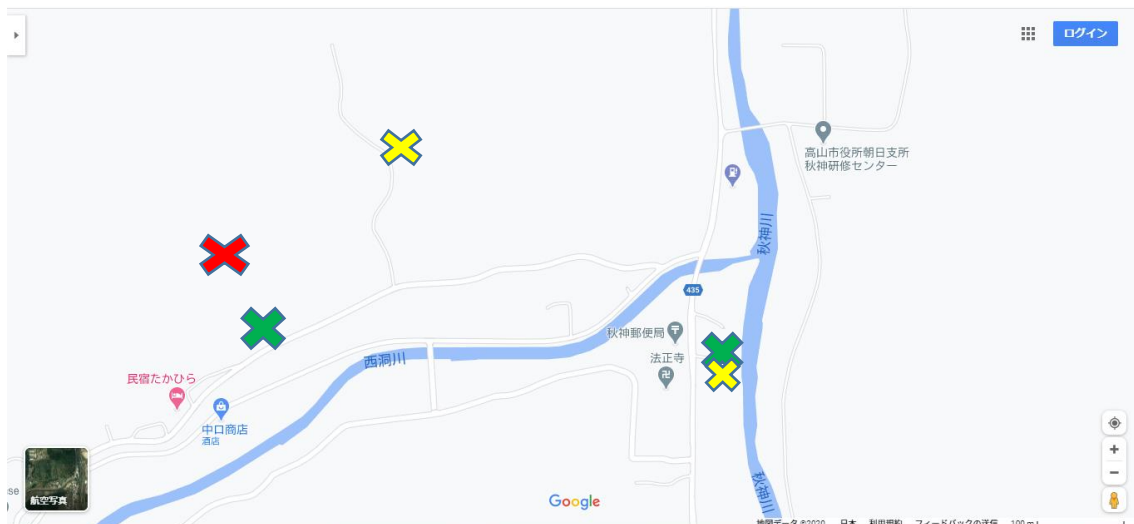
令和2年10月2日

高山市政クラブ 視察報告書

1. 視察期間：令和2年7月29日
2. 視察先：高山市朝日町西洞地区、岩井町、滝町、丹生川町
3. 視察項目：7月豪雨の被害状況
4. 視察目的：7月豪雨の被害状況を調査し市に対し提言を行うため
5. 視察内容：下記のとおり

I. 朝日町西洞地区の被害位置図

①



✕ 家屋被害

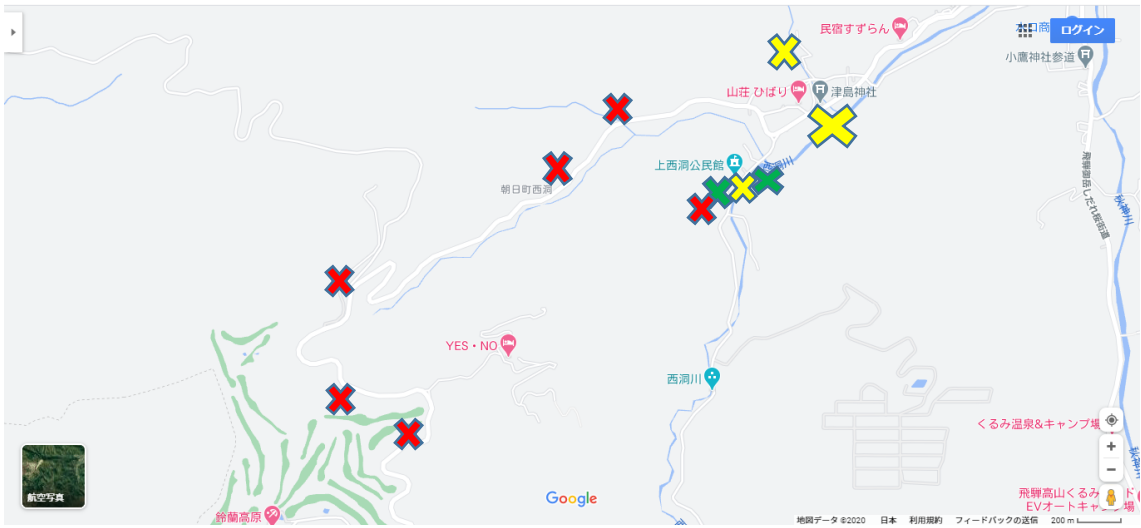
✕ 土砂崩れ

✕ 河川氾濫

2



3



被害写真 I - ①

上流で土石流が発生し構造物が橋梁にぶつかって止まった状態である。



写真 I - ②

河川の氾濫により川の流れが変わってしまった



所感

7月3日から7月31日にかけて、日本付近に停滞した前線の影響で、温かく湿った空気が継続して流れ込み、各地で大雨となり、人的被害や物的被害が発生した。気象庁は、顕著な災害をもたらしたこの一連の大雨による災害の経験や教訓を後世に伝承することなどを目的として「令和2年7月豪雨」と名称が定められた。

この大雨により各地の河川で氾濫が相次いだほか、土砂災害、低地の浸水等により被害が多く発生した。

期間降水量は朝日町宮之前で1,173mm、平年比の400%と尋常ではない雨量であった。このため、あらゆる河川で氾濫が発生、小さな谷や沢でも土石流が発生し甚大な被害をもたらした。このような中、人的被害がなかったのは天祐と言える。

復旧作業には大変な困難が予想されるがオールタカヤマで困難に立ち向かう必要があると考える。

II. 岩井町・滝町の被害位置図

①



②



✕ 家屋被害

✕ 土砂崩れ

✕ 河川氾濫

写真Ⅱ－①

土石流による被害は甚大なものであった



写真Ⅱ－②

美しい棚田の風景が悲惨な光景に変わってしまった



所感

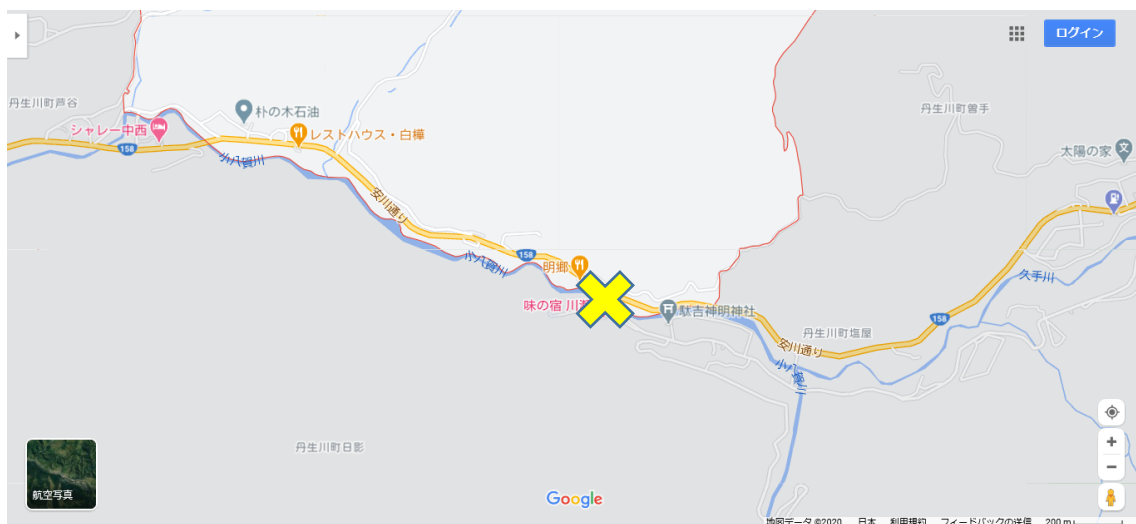
写真Ⅱ－②は滝町の棚田の被害の様子である。写真からも甚大な被害であることがわかる。また、当日は道路が不通で視察できなかったが岩井町の飛騨高山スキー場の被害も実に深刻で今冬の営業が絶望視されている。毎年大勢のスキー修学旅行生を受け入れている国立乗鞍青少年交流の家も宿泊者激減による営業被害も大きい。営業継続について非常に心配される。

Ⅲ. 丹生川町久手、日面の被害位置図

①



②



✕ 家屋被害

✕ 土砂崩れ

✕ 河川氾濫

写真Ⅲ－①



所感

丹生川町の災害においては国道158号が一時不通となり大変な混乱が生じた。主要な幹線道路が不通になると高山は陸の孤島と化す。迂回路整備の重要性等、今回の7月豪雨は大いに教訓になると考える。

以上